

日本学術会議だより

No.22

第15期最初の総会開催される

平成 3 年 8 月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第15期が7月22日から発足し、7月22日～24日の3日間、第15期最初の総会が開催されましたので、その総会等についてお知らせします。

日本学術会議第112回総会報告

7月22日の第15期の発足に伴い、内閣総理大臣による日本学術会議会員の辞令交付が行われた。第15期の会員は、選出制度が学術研究団体を基礎とする推薦方式になって、3回目の会員である。この第15期会員による最初の総会である、第112回総会が7月22日から24日までの3日間、本会議講堂で開催された。

第1日目(22日)は、午前は新会員への辞令交付式があり、午後総会が開会され、直ちに、会長及び両副会長の選挙が行われた。会員による互選の結果、会長には近藤次郎第5部会員が13期、14期に引き続き三選された。人文科学部門の副会長には、川田侃第2部会員、自然科学部門の副会長には、渡邊格第4部会員が選出された(渡邊副会長は再選)。選挙終了後、近藤会長から「新人の方が半数以上おられ、大きな抱負をもっておられると思う。挫折感を持つことのないようできるだけ努力をしたい。皆様にも御協力をお願いしたい」との就任のあいさつがあり、又、川田、渡邊両副会長からもそれぞれ就任のあいさつがあった。

会長、副会長選出後は、直ちに各部会が開会され、各部の部長、副部長、幹事の選出が行われた。(第15期の役員については、別掲を参照)

第2日目は10時に総会が開会され、近藤会長が14期の会長という資格で第14期の総括的な活動報告を行った。その報告の折々には、国際交流とか、将来計画委員会、学術会議の予算等、会長の感慨、または感想をも交えてその所感を述べた。続いて、会員推薦管理会報告として、久保亮五委員長代理として事務総長が、第15期会員の推薦を決定するまでの経過報告を行った。

引き続き、会長から3日目の総会で提案・審議する予定の「第15期活動計画委員会の設置について(申合せ案)」に関する各部での事前討議について、並びに各常置委員会の各部での委員の選出について、それぞれ各部へ依頼した。

総会終了後、各部会が開会され、前述の申合せ案の討議及び各常置委員会委員の選出等が行われた。

第3日目(24日)。10時に総会が開会され、会長から「第15期活動計画委員会の設置について」の提案が行われた。

これは、第15期の活動の基本計画の立案を目的とする臨時の委員会を次の定例総会までの間、設置するという内容を内容としている。そしてこの提案は原案どおり可決された。

総会終了後、直ちに各部会が開会され、設置が決定された第15期活動計画委員会委員の選出等が行われた。

なお、この第15期活動計画委員会は、総会期間中に第1回の会議を開き、全会員を対象にした第15期の学術会議の活動に関するアンケートの実施を決めるなど、早速その活動を開始した。

また、運営審議会附置委員会、常置委員会、国際対応委員会等も活動を開始した。

第15期日本学術会議の辞令交付式等について

第112回総会に先立ち、第15期日本学術会議会員の辞令交付式が7月22日(月)11時から、総理大臣官邸ホールで行われた。辞令交付式は、海部内閣総理大臣、坂本内閣官房長官、大島、石原両官房副長官、稲橋総理府次長等の出席を得て執り行われた。

第1部から第7部までの会員1人ずつの名前が読み上げられた後全会員の最年長である渡邊格第4部会員が代表して海部総理から辞令を手渡された。この後、海部総理大臣から「会員の皆様には、創造性豊かな科学技術の発展、総合的観点に立った学術研究に係る諸活動に御尽力いただきたい。」とのあいさつがあり、これに応じて第15期会員を代表して渡邊格会員が「微力ながら全力を尽くし、重要な責務を全うし、国民の期待に応えたい。」とあいさつがあり、式は終了した。式には192名の会員が出席した。

また、総会2日目の夕方には、学術会議ホールで、坂本官房長官主催の第15期会員就任パーティーが開催された。パーティーは坂本官房長官のあいさつで開会し、日本学士院院長代理の藤田良雄幹事の祝辞があり、これに対する近藤会長の答礼のあいさつ、沢田敏男日本学術振興会会長の発言による乾杯の後、懇談に入った。ホールには溢れんばかりの人々で歓談が続く盛会であった。

第15期日本学術会議役員

会 長 近藤 次郎 (第 5 部・経営工学)
副会長 川田 侃 (第 2 部・政治学)
副会長 渡邊 格 (第 4 部・生物科学)

<各部役員>

第 1 部 部 長 肥田野 直 (心理学)
副部長 弓削 達 (歴史学)
幹 事 一番ヶ瀬康子 (社会学)
" 山本 信 (哲学)
第 2 部 部 長 西原 道雄 (民事法学)
副部長 細谷 千博 (政治学)
幹 事 正田 彬 (社会法学)
" 山下 健次 (公法学)
第 3 部 部 長 大石 泰彦 (経済政策)
副部長 島袋 嘉昌 (経営学)
幹 事 岡本 康雄 (経営学)
" 藤井 隆 (経済政策)
第 4 部 部 長 中嶋 貞雄 (物理科学)
副部長 田中 元治 (化学)
幹 事 竹内 郁夫 (生物科学)
" 樋口 敬二 (地球物理学)
第 5 部 部 長 岡村 総吾 (電子工学)
副部長 市川 惇信 (計測・制御工学)
幹 事 内田 盛也 (応用化学)
" 増子 昇 (金属工学)
第 6 部 部 長 中川昭一郎 (農業総合科学)
副部長 水間 豊 (畜産学)
幹 事 志村 博康 (農業工学)
" 平田 熙 (農芸化学)
第 7 部 部 長 岡田 晃 (社会医学)
副部長 伊藤 正男 (生理科学)
幹 事 渥美 和彦 (内科系科学)
" 金岡 祐一 (薬科学)

(注) カッコ内は、所属部・専門

第15期日本学術会議会員の概要について

この度任命された 210 人の第15期日本学術会議会員の概要を以下に紹介する。(カッコ内は前期)

1 性別 男子207人(207人) 女子 3人(3人)
2 年齢別 50～54歳 3人 55～59歳 29人
60～64歳 105人 65～69歳 58人
70～74歳 15人
最 年 長 74歳(76歳)
最 年 少 54歳(51歳)
平均年齢 63.5歳(63.1歳)
3 勤務機関及び職名別
(1) 大学関係 国 立 大 学 71人(78人)
公 立 大 学 2人(4人)
私 立 大 学 93人(88人)
そ の 他 3人(2人)
計 169人(172人)
(2) 国公立試験研究機関・病院等 11人(9人)
(3) その他 法人・団体関係 9人(10人)
民 間 会 社 9人(6人)
無 職 10人(13人)
そ の 他 2人(0人)
計 30人(29人)
4 前・元・新別 前 会 員 88人(109人)
元 会 員 3人(4人)
新 会 員 119人(97人)
5 地方別(居住地) 北 海 道 4人(3人)
東 北 8人(6人)
関 東 133人(130人)
中 部 20人(17人)
近 畿 34人(42人)
中 国・四 国 5人(4人)
九 州・沖 縄 6人(8人)

(注) 詳細については、日本学術会議月報 7 月号を参照

平成 4 年(1992年)度共同主催国際会議

本会議は、昭和28年以降、学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催してきたが、平成 4 年(1992年)度には、次の 6 国際会議を開催することが、6 月 7 日の閣議で了解された。(カッコ内は、各国際会議の開催期間と開催地)

- ・第 9 回国際光合成会議
(平成 4 年 8 月 30 日～9 月 5 日、名古屋市)
共催団体：日本植物生理学会
- ・国際地質科学連合評議会及び第29回万国地質学会議
(平成 4 年 8 月 24 日～9 月 3 日、京都市)
共催団体：(社)東京地学協会外 5 学会
- ・第 5 回世界臨床薬理学会議
(平成 4 年 7 月 26 日～31 日、横浜市)
共催団体：日本臨床薬理学会

- ・第11回国際光生物学会議
(平成 4 年 9 月 7 日～12 日、京都市)
共催団体：日本光生物学協会
- ・第14回国際平和研究学会総会
(平成 4 年 7 月 27 日～31 日、京都市)
共催団体：日本平和学会
- ・第 8 回国際バイオレオロジー会議
(平成 4 年 8 月 3 日～8 日、横浜市)
共催団体：日本バイオレオロジー学会

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木 7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291